

令和6年度 都城市立山田小学校 学校評価

1 学校経営ビジョン

○ ふるさと山田の学校として、保護者と地域、学校が一体となり、「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童の育成をめざす。

○ 児童一人一人が、自ら考え、判断し、行動できる、自立した人間に育つよう、今、何を身に付けさせるべきかを念頭に置いた学校経営をめざす。

2 学校の教育目標

教育目標	心豊かで、知性に富み、たくましく生きる子どもの育成				
めざす学校の姿	<div><div>○ 主体的に学ぶ児童を育てる学校</div><div>○ 思いやりの心あふれる学校</div><div>○ 活気あふれる学校</div><div>○ ふるさとの薫りあふれる学校</div></div>	めざす児童の姿	<div><div>○ 進んで学び、よく考える子ども</div><div>○ 礼儀正しく、思いやりのある子ども</div><div>○ 自らきたえ、最後までがんばる子ども</div><div>○ 郷土の自然や文化を大切にする子ども</div></div>	めざす教師の姿	<div><div>○ 子どものの可能性を伸ばす教師</div><div>○ 創造性豊かな教育を進める教師</div><div>○ 自己啓発に努める教師</div><div>○ 尊敬、信頼される教師</div></div>

3 学校の教育的課題

○ 自分のよさや可能性を伸ばす児童の育成

○ 他者を尊重し協働する児童の育成

○ 地域や社会と関わる児童の育成

4 学校評価の結果

重点目標	評 価 項 目	アンケートでの 肯定的回答の割合			学校の自己評価		学校運営協議会委員	
		児童	保護者	教師	成果(○)と課題(●)	自己評価	寄せられたご意見	委員評価
1 「自分のよさ」や「可能性」を伸ばす児童の育成 <div><div>① 学ぶ楽しさをもたせ、主体的に学習に取り組ませる。<div><div>・ 授業改善</div><div>・ キュビナの活用</div><div>・ 宿題の廃止</div></div></div><div>② 特別支援教育の視点や生活習慣の視点から児童の主体性を伸ばす。<div><div>・ 栄養教諭の活用</div></div></div></div>	楽しく学校生活を送っている。	3.7	3.5	3.5	○ 各学級担任の日々の取組により、「学校生活が楽しい」と肯定的回答をしている児童の割合が高い。 ○ 学校での学習活動や学校生活を送る上での生活リズムの調整に対して、児童が前向きに取り組んでいることが回答からうかがえる。 ● 家庭学習の取組について、保護者、教師の肯定的回答の割合と児童の肯定的回答の割合に差があるため、校内での指導体制の工夫や改善が必要。AI ドリルへの取組についても同じ傾向が見られる。	3.3	・ 多くの児童が「楽しい」と感じているのは、やはり先生方の努力の成果だと思う。地域の者としても嬉しい。 ・ 宿題をなくしたり、複線型授業に挑戦したりと、学力向上に向けた学校としての強い意欲が感じられる。児童の様子にも良い変容が見られる。 ・ タブレットなどを学習用具として使用することにより、文字を書く機会が減ってきているように思うが、家庭ではどのように取り組ませたらよいのか困っている方もいるのでは。 ・ 家庭での学習の取組方がそれぞれあると思うので、評価が難しい。	3.4
	自分から進んで学校での学習活動に取り組んでいる。	3.5	3.4	3.5				
	自分から進んで家庭での学習に取り組んでいる。	3.6	3.1	3.0				
	目標をもって、AI ドリル（Qubena）に取り組んでいる。	3.5	3.2	3.2				
	自分から進んで読書に取り組んでいる。	3.6	3.3	3.0				
	自分から進んで生活リズムを整えることができる。（「早寝・早起き・朝ご飯」）	3.6	3.3	3.0				
2 他者を尊重し、協働する児童の育成 <div><div>① 細やかな児童観察</div><div>② 適切な称賛</div><div>③ スマホやゲーム等との付き合い方についての指導と啓発</div><div>④ 養護教諭の活用</div></div>	学校は、友達と協力して学校生活をおくるための指導をしている。	3.7	3.3	3.1	○ 各項目に対する児童の肯定的回答の割合が高く、特に、安心して学校に登校できていること、スマートフォンやタブレット端末をはじめとする ICT 機器の扱い等に関する指導について、児童の満足度が高いことがうかがえる。 ● 保護者、教師のどちらも、「相手の立場に立った言葉のかけ方や話し方」（相手意識）について、課題があると感じている様子が見られる。児童の評価との差が生じていることについて、確認をしておく必要がある。	3.3	・ 「相手の立場に立った言葉のかけ方や話し方」については、大人の私たち自身もできているのか不安に思う場面がある。就学前からの意識づけや多くの体験が必要だと感じている。 ・ 地域でもよくあいさつをする姿を見かけます。いつも、笑顔で楽しそうな姿です。 ・ スマートフォン等の扱い方に関する継続的な指導を期待します。	3.4
	学校は、相手の立場に立った言葉かけや話し方の指導をしている。	3.6	3.1	3.1				
	学校は、相手のことを考えた行動をとるための指導をしている。	3.6	3.3	3.3				
	学校は、きめ細かな児童観察をしている。	3.7	3.4	3.4				
	学校は、安心して学校に登校できるような人間関係の醸成に取り組んでいる。	3.8	3.3	3.3				
	学校は、児童の活躍や成長に対する適切な称賛を行っている。	3..7	3.3	3.1				
	学校は、スマートフォンや SNS、ゲームと適切に付き合う教育に取り組んでいる。	3.8	3.3	3.1				
	学校は、スマートフォンや SNS、ゲームと適切に付き合うための啓発を行っている。	4.2	3.4	3.2				

<b>3 地域や社会と関わる児童の育成</b> ① 地域人材の活用 ② 民生委員や山田地区社会福祉協議会等との連携 ③ HP による情報発信と広報活動	学校は、きめ細やかな情報発信を行っている。	3.7	3.4	3.5	○ この項目も、児童からは高評価を得ることができている。また、保護者と教師の評価についても、ほぼ一致している。 ● 地域に貢献できる学習活動については、本年度、6年生が取り組んでおり、地域の皆さんから大変好評だった。このような取組が全学年で可能かどうかについては、今後、検討する必要がある。	3.4	・ 地域素材を活用した学習活動の継続を、引き続き期待したい。 ・ 地域の人たちとの交流が多くなったように思います ・ 地域の方々が参観できる日があると思う。 ・ 地域と積極的に連携をとっていると思う。 ・ 6年生の地域貢献学習活動が好評だったことはとても素晴らしいことだと思う。他学年も、学習段階に合わせた活動などに取り組んでおり、可能性を多く感じている。	4.0
	学校は、公共施設や地域素材を活用した学習活動を行っている。	3.7	3.3	3.4				
	学校は、地域の人材を活用した学習活動を行っている。	3.8	3.4	3.5				
	学校は、児童が地域に貢献できる学習活動を行っている。	3.8	3.3	3.0				
<b>4 その他</b>	子どもは、山田町のことが好きだと思う。	3.9	3.5	3.5	○ 自分たちのふるさとを好きである児童の様子が数値からうかがえる。 ● 学校から発信する文書やメール等の確認については、児童だけでなく保護者への啓発をしていく必要がある。	3.4	・ 子どもたちが地域を好きだと思うことは、素晴らしいことだと思う。 ・ 「山田町の良さ」を知ること、好きになれるのではないかと、思う。 ・ この1年は、山田小として大きく前進されたと思います。 ・ 児童がふるさとを愛する気持ちをもっていることが分かり、評価できる。	3.8
	子どもは、地域や地区の行事に参加している。	3.6	3.5	3.0				
	学校からの連絡メールや配付物は確認し、必要な場合は期日を守って提出している。	3.6	3.3	3.4				
	学校の教育についてのご意見	/	/	/				

5 課題および改善点

- (1) 児童の実態把握 → 「誰一人取り残さない指導」の日常的実践化のため
  - 学習面・生活面の両方
  - 日々の授業での児童の実態の把握
- (2) 家庭学習の在り方について ← 『主体的な学習者』・『学ぶ意欲』が育つための
  - 保護者への十分な説明と啓発
  - 個に応じた内容提示 → 個別最適な内容・選択制
  - 家庭で取り組むことができる学習活動の提示と指導
  - タブレット端末活用の調整（書く活動とのバランス → 学年の発達段階に応じた用い方）
- (3) 友達や仲間との協力・相手意識(主に「言葉」)
  - 「モデル」としての教師の在り方（言語環境を整える）→ 子ども 対 教師、教師 対 教師、教師 対 外部の人
  - 人権感覚の育成 → 多様な「個」を受け入れ、認め合い、尊重し合う学校風土